



ちそうなんです 小学校版

ver.2からの改善点

- ①スチロール板の型をさらに改良し、地層がわかりやすくなりました。

1. 準備

透明プラ版（厚さ0.3～0.5mm、A4版）、発泡スチレンボード（厚さ10mm、A4版）、両面テープ（幅12mm、厚さ1mm）、紙コップ、バット、砂鉄、珪砂、ペットボトル（500ml）

2. 作り方

- （1）プラ板1枚を長辺が残るように半分にする。ハードタイプのカードケースを利用しても良い。
- （2）型紙に沿って、スチレンボードから海底地形を切り出す（4. を参照）。
- （3）両面テープを使って、プラ板と海底地形を貼り合わせる（写真1）。

※注意

- ・両面テープは途中に隙間ができないように貼る。
- （4）紙コップを縦半分に切り分け、底を取る（写真2）。一方の形を水槽に合うように折り曲げ（写真3）、もう一方を貼り合わせる（写真4）。
 - （5）注ぎ口の上部に余ったスチレンボードの切れ端を両面テープで取り付け、土砂供給部の完成（写真5）。
 - （6）水槽が倒れないように洗濯ばさみで足をつけ、土砂供給部も洗濯ばさみなどで固定する（写真6）。



写真1
スチロール板を切り抜くときは、カッターの刃を寝かせて切るのがコツ



写真2
紙コップを使わずに、牛乳パックなどでもOK



写真3
注ぎ口に、余ったスチロール板を挟んで折り曲げると楽に成形できる



写真4
貼り合わせる時の、上下関係に注意！水を流すことを考えて！



写真5
余ったスチロール板を注ぎ口の上部に付けて土砂供給部分の完成

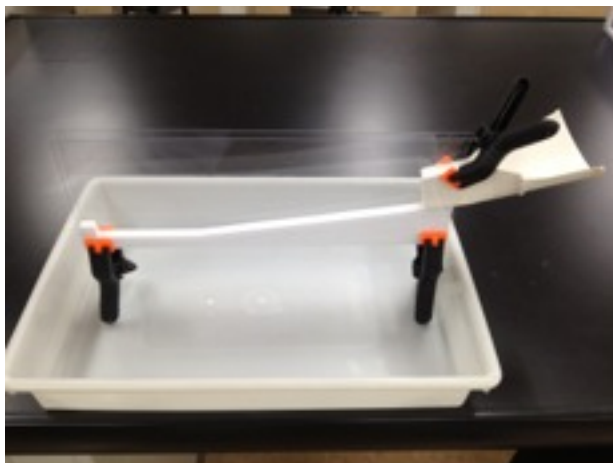


写真6
洗濯ばさみや工作用のナイロンクランプなどで挟み固定する。

3. 実験の仕方

- (1) 砂鉄とケイ砂をほぼ同量混ぜて、水で十分に濡らす（写真7）。
- (2) バット内に装置を設置し、一度あふれるまで水槽部分に水を入れてから、土砂供給装置に土砂を入れる（写真8）。
- (3) 少しずつ、何回かに分けて水を流し込む（写真9）。
- (4) 地層ができる様子や、できた地層を観察させて、気付いたことを出させ、それをもとに考察をさせると良い（写真10）。
- (5) 片付けるときは、水で一気に流し、バットの中の水だけ捨てて乾かすと、混合砂を再利用できる（写真11）。

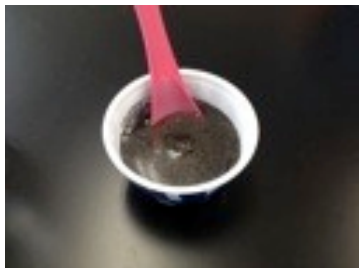


写真7
表面に水が浮くくらい濡らす



写真8
一度水をあふれさせる



写真9
水の流し方は、とにかくチョロチョロ

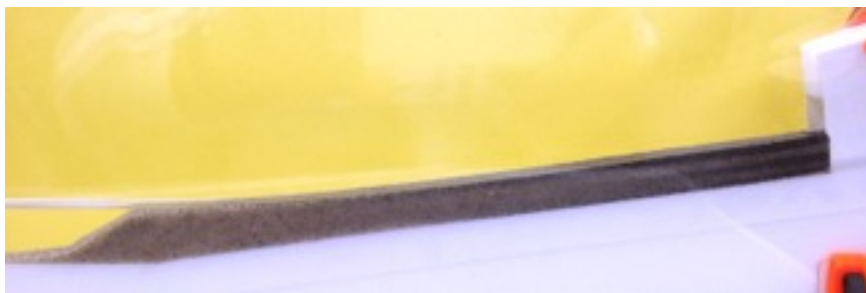


写真10
地層ができていると同時に、沖の方が軽い堆積物（ケイ砂）、陸側に重い堆積物（砂鉄）が多いことに気付かせる



写真11
片付けが手軽なことも、この装置のウリ。
これを面倒くさざると、装置の汚れが取れなくなったり、両面テープが劣化し、水が漏れやすくなる。

4. スチロール板を切り出す寸法（mm）

